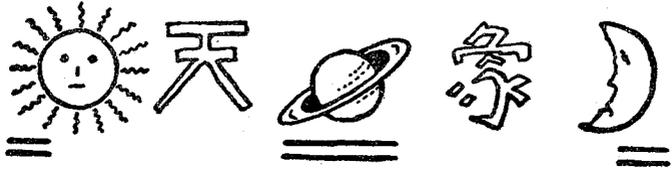


一九三三年
(昭和八年)



五月
月
(花山天文臺)



I—太陽と月 (天空の明暗)

日付	太陽		月			月の相
	日出 (星座)	日没	月齢	月出 (星座)	月没	
日	時分	時分	日	時分	時分	
1	5 7 (ひつじ)	6 42	5.8	9 50 (ふたご)	0 5	●上弦3日7時39分
6	5 2	6 46	10.8	15 6 (しし)	2 39	○満月10日7時4分
11	4 57	6 50	15.8	21 17 (さそり)	5 45	
16	4 53 (うし)	6 54	20.8	0 38 (やぎ)	11 29	●下弦16日21時50分
21	4 49	6 58	25.8	2 48 (うを)	16 31	
26	4 47	7 1	1.2	5 52 (うし)	21 17	●新月29日19時7分
31	4 45	7 5	6.2	10 45 (しし)	—	

II—遊 星 界

水星 先月26日西に離角であり、今月29日15時外合となるので、月初め程よく、約1時間半太陽よりさきに昇る、1日には蛇遣りの近く。

金星 夕方の星であるがまだ観望に不適、月末には日没後約40分見られる。

火星 吾々よりぐんぐん遠ざかり視直経も 9.27—7.28 に減ずる、光度も 0.2—0.7 と落ちる。衝をすぎたから望遠鏡でみると、右側にかけて見える。北極冠はごく小さい。アウロラ灣、アシダリウム、シレヌムシメリウム、ディアクリア、シルチス、エトピア等何れも著しく、10センチもあれば見える。來月は梅雨なので今月で火星ともお別れである。

木星 相變らず獅子のσの近くにあり火星が歸つて來るのを待つてゐる。光度、—1.8 大赤點は南半球(上)にあり、内部は明るく赤點の西(左)の方は細くてはつきりした3本の條となつてゐる。赤點の右ふちは薄暗くやがて2本の濃い帯になる。そしてこの2本の帯は1箇所濃く太い條で連結されてゐる。北半球の帯は非常に濃い、その中にはいろんな模様が見えるが、帯の北縁に目立つてつよい卵形の白斑がある。之と大赤點との相對位置のずれを毎日見るのも面白からう。近頃は南北兩半球共に卵形の白い模様が非常に多い。

土星 山羊座にある、早く起きて見るとよい、月末程見やすくなる。環は北が見えてゐる。即ち視野内で下から見上げた様な状態である。

天王星 20日9時; α=1時34.8分, δ=+9°17', 光度6.2

海王星 20日9時, α=10時37.7分, δ=+9°35', 光度7.7. 火星(北46')と17日6時合

流星 2日—8日 水瓶 γ 附近. 速, 痕
18日—31日 冠 速, 白

五月の夜の天空

(恒星時 Sidereal Time 10時)

日本の中央部(京, 阪, 神地方)で

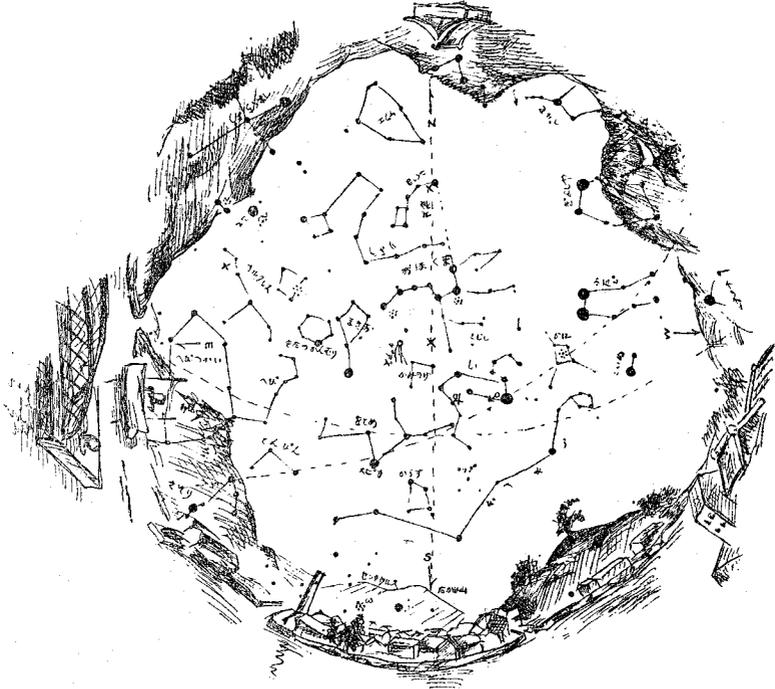
5月1日ならば 午後9時

5月15日ならば 午後8時

東京は約15分早く

福岡は約20分遅く現はる

但し時刻は中央標準時.



III 五月の星座

双子星が冬の思出を地平の彼方に運んでゆく頃、パツと明るく輝くのは東北の天にあらはれたベガ、北極の柱にまきついた龍が重さうにダイヤモンドの頭を振りながら下界をのぞく。天秤の α_3 が東に昇るとき、きまつて地平に見えるものは曲りに曲つた蛇の頭と、たくましい蛇の腕である。ダイヤの輝く環は北の冠か、それとも天の巨人の指輪か、大ひしやくは今や昇りきつた。ひしやくのかへした水はやがて地上に梅雨となつて降りそぐだらう。清浄なスピカ、霞をも霧をも通して遙か彼方の天に輝くスピカ! 血なまぐさい謂れの多い星座の中に、何の物語をも語らず、つましくかゝる。